

平成29年度 京都府立京都八幡高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「ユニバーサルデザイン(UD)」を基本理念とし、「科学・共生・感動」のコンセプトを具現すべく教育活動を展開し、生涯を通じて不断に学び考え、多様な人々と協力し合いながら、主体性を持ってより良い社会作りへ貢献できる人材の育成を目指す。そのために、以下のことを推進する。</p> <p>(1) 学習における基礎・基本を徹底し個性を伸ばすことにより、知識・技能に加えて、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等、幅広い学力を育む活動を推進する。</p> <p>(2) 基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性・社会性を育む活動を推進する。</p> <p>(3) すべての教育活動の実践をとおして、南北キャンパスの絆を強め、教職員の資質向上に努めるとともに、信頼され、期待される学校づくりを推進する。</p>		<p>昨年度は創立10周年を迎え、これまでの歩みを振り返りながら、今後の更なる充実・発展に向けて総括をすることができた。また、進路指導において、南北両キャンパスで国立大学への進学者が出るなど、3年間の組織的、持続的な取組が一定の成果をあげた。本校の特色ある八幡支援学校との交流及び共同学習についても、南北両キャンパスで充実したインクルーシブ教育を推進することにより、両校のスクールパートナーシップを更に深めることができた。</p> <p>一方、今後の課題として、基礎学力を定着させ、自ら課題を解決する力を育成するために、授業改善のための取組を継続するとともに、両キャンパスの教育活動をより活性化し、その広報活動を一層充実させることで、より中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを引き続き行っていくことである。</p>		<p>南北両キャンパスの一体感を基盤として、あらゆる教育活動をおとして、「科学・共生・感動」の3つのコンセプトの具現化を図るとともに、生徒及び保護者に信頼され、地域から期待される学校づくりを推進するため、以下のことを本年度の重点課題とする。</p> <p>(1) 普通科と2つの専門学科における、それぞれの教育内容の更なる充実・発展</p> <p>(2) 就学保障及び進路保障に向けた指導改善の研究・研修の充実</p> <p>(3) 安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実</p> <p>(4) 学習システムのUD化と授業を大切にす取組の充実</p> <p>(5) 保護者・地域連携による基本的な生活習慣及び社会的自立心の育成</p> <p>(6) 学校行事、部活動、ボランティア活動等の充実による学校の活性化</p> <p>(7) 八幡支援学校との協働を含め、インクルーシブ教育の推進・研究</p>	

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末
組織運営	組織運営	教育力の向上	教職員の「働き方」を改善して勤務意欲の向上や心身の健全化に努め、教育活動の質的充実を図る。	時間外勤務を縮減して心身を良好な状態に保ち、生徒と向き合う場面でより良いパフォーマンスを発揮する。	時間外勤務の縮減		勤務実績表の活用により勤務実態を把握し、退勤時刻(勤務時間外)を意図的に早める。月1回のライトダウン(完全退勤日)を設定し意識啓発する。	平日の平均退勤時刻(勤務時間外) 残留勤務者(緊急対応を除く)の数	前年同月より5分短縮 5%以下	
	組織運営	広報活動	積極的な広報活動に努めて本校についての理解を深め、志願者の増加を目指す。	報道機関による報道回数	前年比増		報道機関等へ積極的な広報活動を行う。	報道回数	前年比増	
UD推進部	UD教育	UD学習	ユニバーサルデザインの姿勢や態度を身に付けさせる	年度末アンケートでの「人がもつさまざまな個性のちがいを認めあえる」の項目に対する肯定率	95%		各学年の目標に基づきUD学習を推進する UD教育に関する記事を含む「UDつうしん」を発行する	UD学習に向けての各学年との打ち合わせや総括などの回数 年間の発行回数	各2回 10回以上	
	組織・運営	生徒募集	本校の魅力や特徴をわかりやすく情報発信する	入試選抜における志願者数	募集定員を超えている		学校ホームページの充実 学校説明会の開催 中学校及び塾訪問の実施	最新ニュースの発信やコンテンツ更新の年間回数 説明会毎に実施するアンケートによる肯定率 年間訪問回数	100回以上 80% 2回以上	
教務	組織・運営	生徒異動	学習システムのUD化を進める	転退学者数	昨年度比減		調査前、学期末に成績不振者に対する基礎補充を実施する 追認対象生徒に対する補充を実施する HR出席簿への転記を呼びかける 欠課過多生徒の報告(連絡)の徹底を呼びかける	成績不振者数 追認認定率 欠課過多生徒数 欠課過多生徒数	昨年度比減 80%以上 昨年度比減 昨年度比減	
	組織・運営	学力向上	学習指導の充実を図る	生徒満足度調査「Q8:学校全体に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	70%以上		読書活動の推進 調査前学習会の実施	生徒一人あたりの貸し出し冊数 年間設定回数	昨年度比増 5回	
生徒指導部	生徒指導	生徒指導	学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせる環境をつくる。	生徒満足度調査「学校を信頼し、安心して高校生活を過ごせますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上		盗難がおこらない環境の整備及び啓発活動 交通安全等に関するHR指導(交通安全指導、担任への資料提供等) 身だしなみ強化期間の設定 遅刻生徒に対する指導の強化	生徒満足度調査(Q13)の肯定率 実施回数 実施の回数 遅刻回数	肯定率75%以上強い肯定率35%以上 12回 1回 昨年度より10%減	
	生徒指導	部活動	生徒の主体性を育み、学校への帰属意識を高める	生徒満足度調査「本校には打ち込める部活動や体験活動などがありますか」の肯定率	肯定率 75%以上 強い肯定率 35%以上		部活動加入を促進 生徒部通信等の発行によるアピール 部活動 部長会の開催	12月時点での部活動加入率 発行回数 実施回数	40% 10回 3回	
進路指導部	キャリア教育の充実と推進	組織的な進路指導と進路実現	各学年との連携を密に、正しい職業観、勤労観を身に付けさせるとともに、明確な進路目標を持たせることで進路実績の向上を図る。	生徒満足度調査「進路実現に向けて、効果的な指導を行っているか」の肯定率 就職内定率、進学者数	肯定率80% 就職率100% (現役生) 進学者数維持		計画的な進路ガイダンスの実施及び進路対策会議の実施 就職希望者への事前・事後指導 進学希望者への学習活動の充実と環境整備	実施回数 就職ガイダンス・事後指導の実施回数 進学補習、We Can Project(土曜補習)、個別指導等々の実施回数	20回以上 進学補習等のべ10回以上	
保健部	保健管理	環境管理	環境美化への意識を高め、ゴミの分別を徹底する。	生徒満足度アンケート19の「本校は環境意識の向上に積極的にとりこんでいますか」の肯定率。	肯定率が75%以上		「ほけんだより」でゴミの分別に関する呼びかけをおこなう。 生徒会、保健委員会、安全美化委員会が環境美化への呼びかけをおこなう。 エコキャップ運動に関する教室掲示をおこなう。	掲載回数 呼びかけの回数 掲示回数	4回 3回 2回	
第1学年部	学習指導	学力の育成	基礎学力の定着をはかる。	生徒満足度調査「学校全体に学習する雰囲気がありますか」肯定率	60%		学び直しの時間を設定する。 授業中の生徒の学習状況を学年会等で検討する。 授業規律についてSHR等で確認する。	設定回数 検討回数 確認頻度	年10回 年20回 週2回	
第2学年部	学習指導・生徒指導	規律の確立	学校生活全般を大切にさせる意識改革とそれに基づく行動変容の確立	生徒満足度調査「学習雰囲気」の肯定率	75%		授業を大切にす意識の定着を図るため、日々の細かな指導に併せ、定期考査に向けた学習会や自習室を設定するなど、学習環境の整備・体制を整える。 基礎学力・基本的な生活習慣の形成を図るため、日常の細かな指導に併せ、個に応じて一対一面談を積極的に実施するなど、保護者連携も踏まえた指導を徹底する。 担任団の機動的な総力を高めるとともに、生徒のより内面に迫る規律指導を強化するための、授業中や休憩時間等の校内巡回指導を徹底する。	定期考査前の学習会・自習室の設定 手立てを要する生徒・保護者との面談 授業中、休憩時間等の校内巡回	毎考査 年間3回以上 毎日	
第3学年部	進路指導	進路の保障	進路を決めて卒業させる。	年度末での進路決定者の割合	90%		進路意識向上のため、個別面談による進路指導を行う。 希望進路実現のため、学年部による面接指導を行う。 学習環境整備のため、教室の巡回・点検を行う。	担任、学年部長、学科長による面談回数 面接受験生徒への面接指導回数 巡回・点検頻度	3回 3回 毎日	
事務部	施設・設備管理	生徒の事故防止	安心・安全な教育環境・施設設備の整備と充実に努める。	施設・設備に起因する生徒の事故件数	0件		各分掌、教科からの予算要望書提出時などの際に、施設設備の状況確認を行う。 教職員からの施設設備異常の報告を受けた際に、速やかに方策を検討する。 整備を必要とする事項を所管課に報告し、改善を依頼する。	予算要望ヒアリングの実施、予算配分通知の提示 改善の時期、改善完了の逐次報告 年間の報告・依頼回数	1回 報告毎 2回	
専門学科	魅力ある学科づくり	学習指導	専門学科生としての学習意欲を高める。	生徒満足度調査「学校全体(南)に学習する雰囲気がありますか」の肯定率	80%		進路指導部と連携し、個々に応じた指導を行う。 進路指導部と連携し、各学科に応じた指導を行う。 生徒指導部と連携し、個々に応じた指導を行う。	3年生の進路実現率 2年生の具体的な進路希望率 1年生の基本的な生活習慣の確立	90% 90% 80%	

分掌・教科	評価領域	評価項目	重点目標	重点目標の評価指標	ターゲット	評価	具体的方策	方策の評価指標	ターゲット	評価
			「学校経営の重点」「生徒満足度調査」「前年度の成果と課題」等を受けて、何を重点目標とするか。	どのような結果・成果をもって重点目標が達成されたか。			重点目標のターゲットをクリアするために、どのような行動をとるか。	どのような状態をもって「方策を十分講じた」と判断するか。		中間 年度末
国語科(北)	学習指導	授業規律の確立	意欲的・自律的に学習する習慣を作り、基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ6～Q11の平均値	3.5		単元につき1回以上、発表や意見を記述する機会を設ける。 単元につき1回以上の提出課題を課し、取組態度を評価する。 家庭での学習習慣の定着を促し、計画的に小テストを行う。	実施回数 実施回数 実施率	単元に1回以上 単元に1回以上 80%	
地歴・公民科(北)	授業	基礎学力の向上	学習習慣の定着化を図り、基礎学力を向上させる。	授業アンケート項目Q9～Q11の平均値	3.5		授業開始前に教科書、資料集、ノートなど必要物の確認を行う。 考査ごとに、課題を課し、小テストを実施する。 地歴・公民科教科会において、各自が年一回研修内容の報告を行う。	年間実施率 実施回数 実施回数	95% 3回 年1回	
数学科(北)	授業	授業への積極的な参加	規律ある授業を確立し、生徒達に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る	授業アンケートQ8「あなたは、私語や居眠りをせず授業している」Q9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる」の平均値	3.4		服装等の身だしなみ、起立、礼を徹底する。 授業中にノートを取らせ、定期的に点検をし、加点の対象とする。 問題集やプリントを利用して演習をさせる	授業の取り組みの点検 点検の回数 問題集等利用の回数	週3回 学期2回 週1回	
	研修	指導力向上	積極的に様々な研修に参加し、指導力を向上させる	授業アンケートQ3「先生の授業に関わる説明はわかりやすい」、Q4「先生は興味や関心が高まる授業をしている」の平均値	3.5		中学校や校内他教科の授業参観に参加して、自分の授業の指導に活かす 校外の各種研修に参加し、教科会議で報告することにより教科に還元する 教科内研修を続ける	公開授業等への参加回数 各種研修への参加回数 教科内研修の回数	年3回 年1回 年6回	
理科(北)	授業	基礎学力の向上	授業に興味・関心を持たせ、基礎学力を向上させる。	授業アンケートQ4、Q9、Q10、Q11の平均値	3.4		復習プリントを提出させ、各生徒の学習状況を確認する。 実物を手にとっての観察や実験を実施する。 校外研修等へ参加し、研究と修養に努める。 授業に関する報告・検討会を開催する。	プリントの作成回数 実験・観察の実施回数 研修参加回数(1人につき) 報告・検討会年間実施回数(1人につき)	各単元で1回以上 各講座平均2.3回 平均2.5回 2回	
保健体育科(北)	授業	学習意欲の向上	自らの健康を管理し、改善できる資質や能力、態度の向上を図る。	授業アンケートQ9「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.7		健康の保持増進につながる運動の大切さを理解させるとともに、体づくり運動、持久走・ロードレースを必修とし、基礎体力の向上を目指す。 ベル着の徹底及び集団行動の充実、定着を図り、ルールやマナーを守りながら安全に留意して活動できる規範意識の向上を強化する。 個に応じた指導など授業内容を工夫し、意欲的・積極的に授業へ参加する意識の向上を養う。	サーキットトレーニング30秒MAX及び持久走・ロードレースの記録向上の割合 体育の2分前集合完了、保健の1分前の授業準備完了の割合 保健体育の両科目で成績不振・欠席過多による単位不認定者40人以下	60% 60% 5%	
芸術科(北)	授業	授業に対する取組状況	授業規律を確保し、毎時間活動内容に真剣に取り組む姿勢を身につけさせる。	授業アンケートで授業規律に関する全項目の値	3.5		教科担当者が授業開始ベルの前から待機し、ベル着を呼びかける。 忘れ物の確認、私語、居眠り、活動状況等について常に指導し、成績に反映させる。 課題に対して、より良い作品やより良い演奏に向けて努力するよう指導する。	開始ベルの前から授業準備や着席を促す声掛けの割合 授業規律確保のための声掛けの割合 各生徒の活動状況に応じた指導の割合	90% 90% 80%	
英語科(北)	授業	授業への取り組み方	授業を大切にすることを意識を育て、基礎的な学力を向上させる。	授業アンケートQ8Q9Q10の平均値	3.4		単語テストを実施する。 ノート等の点検を行い、取組状況を確認する。 インタビューテスト等の表現活動を行い、生徒が主体的に授業に参加する機会を設ける。	各学期の実施回数 各学期の点検回数 各学期の実施回数	5回以上 2回 1回以上	
家庭科(北)	授業	学習意欲の向上	授業に興味関心を持ち、取り組む姿勢を向上させる。	授業アンケートQ9「あなたはこの授業に意欲的に取り組んでいる。」項目の平均値	3.3		課題を毎時間に提出 体験的・実践的な授業の充実 準備物の徹底を図る	点検回数 実施回数 教科書・ファイル・エプロン三角巾の持参人数	90% 90% 90%	
情報科(北)	授業	授業に対する取組状況	前向きに授業に取り組む姿勢を身につけるとともに、情報機器に関する基礎技術の底上げをおこなう。	授業アンケートの「あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいる。」の平均値	3.3		忘れ物の確認をおこなう。 机間巡視により、課題への取組状況を細かく把握する。 課題・授業プリントの提出を徹底する。	確認状況 実施率 提出状況	90% 90% 90%	
商業科(北)	授業	授業の成果	ビジネスに関する知識や技術の修得と情報モラルの修得。	授業アンケート「学習内容を理解した」「身につけた」の回答の平均値	3.1		ビデオ教材や新聞資料等を授業に取り入れ、授業の興味関心や意欲を高める。 情報モラルに関する内容を取り入れる。 資格取得の意義を説明し、受験者および合格者を増やす。	実施回数 実施回数 ビジネス系検定試験の受験者数	3回以上 年1回以上 25人以上	
国語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	基本的な学習態度を身につけさせ、基礎学力の向上をめざす。	授業評価アンケートQ10「あなたは、課題や提出物の期限を守って提出できている」の平均値	3.6以上		定期考査ごとに、ノートを取り直し点検する。 1年生国語総合において、漢字の小テストを実施する。 漢字検定学習会および個別指導	ノートの点検回数 小テストの実施回数 漢検対策学習会の回数	定期考査毎 15回以上 学習会3回	
地歴・公民科(南)	授業	基礎学力の向上	授業の理解度や興味・関心をむかめることで、学習習慣の定着化につなげ、基礎学力を向上させる。	授業アンケート項目Q1～Q11の平均値	3.3		授業ノートの効率的な書き方指導および点検を考査ごとに行う。 学期ごとに言語活動をともなうレポートを課す。	実施回数 実施回数	3回 2回	
数学科(南)	授業	基礎学力の向上	授業規律を確立する。 生徒の学習意欲を高める工夫をし、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ6「あなたは、授業の開始時に着席し、授業の準備ができています。」の平均値	3.4		課題を課し、家庭学習の習慣と基礎学力を身につけさせる。 各種研修に参加し、教科会議等で還元する。	実施割合 各種研修への参加回数	70% 年1回	
	検定・資格	検定受検・資格取得	数学検定を通して数学に対する興味・関心を引き出し、数学的な見方・考え方を身につけさせる。	数学検定の合格率	60%		数学検定を実施する。	数学検定の実施回数	2回	
理科(南)	授業	基礎学力の向上	学習に取り組む姿勢を高め、学力の定着を図る	授業アンケートQ8、Q9、Q10の平均値	3.6		不定期でのノート点検により、各生徒の学習状況をチェックする。 小テストの実施により、生徒に復習の習慣を定着させる。 定期考査における成績不振者を減少させる。	年間のノート点検実施回数 小テストの実施回数 成績不振者の生徒の割合	10回 2週間に1回以上 10%未満	
保健体育科(南)	授業	学習意欲の向上	授業開始時の意欲を高める。	授業アンケートQ6「あなたは、授業の開始時に着席し、授業の準備ができています。」の平均値	3.8		体育/保健の授業開始時における生徒準備状況を評価する。 授業を欠席、見学した際に届け期限内に提出させる。	5分前・3分前/1分前に集合整列、または活動の準備をしている生徒の点検頻度 欠課届け、見学届けを期日までに提出させる達成率	90% 60%	
芸術科(南)	授業	生徒の授業への意識の向上	意欲的に取り組む姿勢を高める	授業評価アンケートQ6～11の平均値	3.3		必要物を確認し、不要物への指導を行う。 意欲的に取り組む姿勢を高めるために、生徒の活動状況に応じた指導を徹底する。	確認割合 授業規律の確保のための声掛け割合	80% 80%	
英語科(南)	学習指導	基礎学力の向上	基本的な学習態度を身につけさせ、基礎学力の向上をめざす。	授業評価アンケート「あなたは、課題や提出物の期限を守って提出できている」の平均値	3.6		授業開始の挨拶をし、机上の整理を促し、授業環境を整える。 定期考査ごとに、ノートを取り直し点検する。 小テストを定期的実施する。	指導割合 ノートの点検回数 小テストの実施回数	80% 定期考査毎 年間15回	
家庭科(南)	学習指導	授業規律の確立	授業規律を確立し、授業に対して興味・関心・意欲を向上させる。	授業評価アンケートQ5の規律に関する項目の平均値	3.3		調理実習時に事前予告のお知らせプリントを配布し、準備物の徹底を図る。	準備物持参人数	95%	
情報科	授業	学習意欲の向上	授業に意欲的に取り組ませ、基礎学力の充実を図る。	授業アンケートQ6(授業の準備)、Q9(意欲的取り組み)の平均値	3.3		授業開始時にはコンピュータ起動ができていますか点検する。 課題への取り組み状況や態度を点検する。 フォルダに保存できているか、授業後点検する。	指導割合 指導割合 点検回数割合	90% 90% 90%	
福祉科(南)	授業	基礎学力および、専門的知識・技術の定着	学習環境を整え、専門科目における知識・技術の定着を図る。	授業アンケートQ3・5・11の教科全体の平均値	3.4		授業に集中できるように、授業規律を確立する。(姿勢を直し、私語を許さない) 全ての科目において、座学に止まらず、演習を実施し学習内容の定着を図る。	授業アンケートQ5「先生は、私語や不要物などに対して注意を行い、規律ある雰囲気での授業をしている」 年間実施回数	3.4 10回	